



『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第13号(2008年5月30日)

「『新・国際優良企業』の海外売上高」

今回は、「新・国際優良企業」のキーポイントである海外売上高比率がどのようになっているかについて、数社の例でみます。

まず、シュリンクラベル大手企業についてです。2008年3月期の海外売上高比率は33.6%と、2007年3月期の31.5%と比べ上昇しています。更に、5年前の2003年3月期の海外売上高比率は25.9%ですから、ここ数年で非常に高まっていることが分かります。また、地域別で見てみますと、北米の比率が2007年3月期の16.9%から16.4%に微減する一方で、欧州が12.9%から15.1%と増加しており、海外売上高率全体の上昇を牽引している状況です。

続いて、スポーツ用品大手企業についても同様に見てみますと、2008年3月期の海外売上高比率が33.6%、2007年3月期が31.7%、2003年3月期が20.6%と大きく上昇しているのが分かります。また、この企業も欧州やアジア・オセアニアの増収率が米州の増収率を上回っている状況です。

最後に、センサー製造の大手企業についても見てみますと、2008年3月期の海外売上高比率が25.8%、2007年3月期が23.9%、2003年3月期が20.7%と、徐々にではありますが着実に上昇しており、ここでも北米・中南米以外の地域が牽引しています。

昨年後半以降、日本の株式市場は、米国サブプライムローン問題を起因としたグローバルでの信用収縮や米国景気減速懸念、原油や穀物など商品市況の高騰などにより、不安定な動きが続いています。一方で、長い目で見ればアジアをはじめとする新興国は、大きく成長し世界経済を牽引する可能性が高いと考えられる中、「新・国際優良企業」はその成長の果実を確実に享受するために、しっかりと施策を打ってきているように見てとれます。※出所：各社決算短信

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。また、上記は株式投資に関して理解を深めていただくためのものであり、特定の有価証券を推奨しているものではありません。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。